

第52回 日本人工関節学会が

2月25日（金）～26（土）

国立京都国際会館にて開催されます。

当院からは

整形外科部長 人工関節センター長

リハビリテーションセンター長

内藤 浩平 先生が

学術発表されますので、ご紹介します。

第52回 **日本人工関節学会**
The 52nd Annual Meeting of the Japanese Society for Replacement Arthroplasty

会期 2022年2月25日(金)～26日(土) 会長 赤木 将男
(近畿大学医学部整形外科学教室 主任教授)

会場 国立京都国際会館

臨床研究のすすめ
世界は未知のモノに
あふれている

脊椎靱帯骨化にともなう骨盤後傾により人工股関節前方脱臼をきたした1例

A case report: anterior dislocation after total hip arthroplasty on sagittal-pelvic malalignment

内藤浩平、城崎和久

はじめに

胸腰椎椎体前縁の骨棘形成や靱帯骨化、これに伴う腰椎後弯と骨盤後傾が進行する脊椎変化は、加齢に伴いしばしば発生する病態である。今回、脊椎アライメント変化により人工股関節全置換術(THA)術後4年の経過後に、前方脱臼を繰り返したため再置換術を施行した症例を経験したので報告する。

症例

69歳、女性、65歳時、右THAを施行した。術後4年の69歳時、風船バレーの運動中に右股関節(THA)の前方脱臼を発症、整復操作を受けたが、その2週間後に体幹を反らせた動作時に同関節を再脱臼した。臥位での股関節エックス線像では臼蓋コンポーネントの外方開角52度、前方開角27度、脊椎骨盤パラメーターでは立位全脊椎側面像において、腰椎前弯角(LL)後弯 29度、Sagittal vertical axis(SVA)30mm、Sacral slope(SS) -10度、Pelvic tilt(PT) 112度、Pelvic incidence(PI) 77度であった。胸椎レベルに汎発性靱帯骨化が起こり、さらに腰椎が後弯して骨盤後傾が強くなり、体幹を伸展する動作時に股関節が前方脱臼したと考えられた。再置換術は後側方アプローチで実施、50mmのcup shellを抜去して、リーミング後に5

4mm cup shell を再固定した。stem は弛みを認めなかったため温存して Dual mobile cup(DMC、head 28mm,bearing 44mm:Zimmer-Biomet 社)を装着して整復した。術後エックス線像では外方開角37度、前方開角19度であった。術後2年の経過観察中に再脱臼は起こっていない。

考察

Suzuki らは、THA 術後は全例で骨盤後傾化する傾向にあり、腰椎椎体骨折などによる腰椎前弯の減少は骨盤後傾を進行させるため注意を要すとしていた。大橋らは、加齢性骨盤前傾の減少による THA 脱臼に対して、cup shell は維持して stem を入れ替え、延長した骨頭と constrained liner で再置換した症例を報告。楊らは、DMC-THA での脱臼率は1%で、intraprosthetic dislocation は認めなかったと報告している。

まとめ

脊椎靭帯骨化と腰椎後弯により骨盤後傾が強くなり THA 術後前方脱臼に至った症例に対して Dual mobility cup を用いて再置換術を行った症例を報告した。